

Subjective Evaluation of Parkinson's Disease (PDQ-39) Associated with Changes in Brain Microstructure

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鯨井, 仁 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003683

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2876 号

Subjective Evaluation of Parkinson's Disease (PDQ-39) Associated with Changes in Brain Microstructure

パーキンソン病の主観的評価(PDQ-39)と脳微細構造の変化との関連

鯨井 仁 (くじらい ひとし)

博士 (医学)

論文内容の要旨

パーキンソン病(PD)患者の診療では、しばしば患者の主観的評価と医療者の客観的評価の解離が生じることがある。PDQ-39 は PD 患者の主観的指標の信頼性と妥当性が担保されており、8 個の下位項目と総合的指標 (Summary Index, SI) を評価する 39 個の質問からなる。PDQ-39 で点数化する主観的な QOL 評価と神経変性の関連に影響を与えるかは不明であり、本研究では脳微細構造の変化に焦点を当て QOL 低下と神経変性との関連を明らかにすることを目的とした。そこで、認知機能に問題のない PD 患者 84 症例に対し、PDQ-39 および各種客観指標 (MDS-UPDRS, 年齢, 性別, Hohen&Yahr 重症度(H&Y), MMSE, FAB, MoCA-J, LEDD) について評価し、同時に 3T-MRI を撮影した。また、日常生活動作の指標である part2 が SI と強い相関を認めたため PDQ-39 の SI で cut off 値 20 を設定し、高値群 (High-PDQ-39, n=51) と低値群 (Low-PDQ-39, n=33) で患者背景の群間差の解析を行った。MRI は先進的拡散技術も使用し、健常対象群 (HC, n=27) も含めて白質の解析を行った。その結果、MDS-UPDRS part1・2, H&Y, FAB でいずれも高値群のスコアが高く有意差を認めた ($P < 0.05$)。他の主要項目では有意差を認めなかった。MRI 解析では低値群の Axial diffusivity (AD), Mean diffusivity (MD), Radial diffusivity (RD) 等で有意差を認めたが高値群では Isotropic volume fraction (ISOVF) で有意差を認めるだけで他のパラメータでは有意差を認めなかった。運動の重症度について H&Y を 1・2 の群と 3 以上の 2 群に設定し 2 群間を設定した MRI データの群間比較では、H&Y では AD で有意差を認めたが他のパラメータでは有意差を認めなかった。以上より、PDQ-39 高値群と健常者には白質に大きな差が認められず、低値群で有意に差が認められることから、PDQ-39 は社会的な影響や関わりなどの患者を取り巻く環境や患者自身の価値観などが影響を与えている可能性があると思われた。